

第31回 伝統の舞「番楽フェスティバル」

真室川町

1 はじめに

当町に伝承する番楽は、秋田県由利郡鳥海町（現由利本荘市）より伝来したものとされ、現在では釜淵、八敷代、平枝の3地区において現存しており、それぞれが保存会を組織し、今日において伝統芸能を継承する活動に取り組んでいる。

番楽フェスティバルは平成5年に町内3団体の交流と技術の向上を目的として開催したのが始まりであり、第3回以降は、起源とされる由利本荘市（旧鳥海町）本海獅子舞番楽や金山町の番楽団体、遊佐町杉沢比山との競演や交流を行っている。

新型コロナウイルスの猛威により令和2年度から中止を余儀なくされていたが、実に3年越しの開催であった。



2 事業のねらい

地域に伝わる伝統芸能「番楽」について、町内外の番楽団体が集い、本フェスティバルを行うことで継承・育成活動を推進するとともに「伝承文化の郷まむろがわ」のPRを図る。

また、道具・面等の展示や番楽についての解説及びマップ等の掲示により、来場者が番楽を貴重な伝承文化であるという認識を高めることにつなげると共に、伝承文化を身近に感じられる機会づくりになる。

3 具体的な取組み

3団体の代表からなる企画運営委員会において開催の可否を検討し、10月15日（日）、「ふるさと伝承館」を会場とし、有観客および町外から番楽団体を招いての通常開催とすることにした。

事業の周知方法としてはPRを広範囲なものとするため、作成したポスターを県内各市町村と隣県（湯沢市、旧鳥海町）の主要な社会教育施設や道の駅へ掲示依頼を行っている。ポスターにはQRコードが印刷されており、スマートフォンで読み込むことで町のポータルサイトに接続され詳細を知ることができる。



4 成果と課題

4年ぶりの開催であったが町内外（遠くは京都府から）から多くの方々にご来場いただき、舞手の

熱もこもり、賑わいづくりができた。また、町外団体との相互交流も生まれ、町内3団体がそれぞれ、秋田県由利本荘市にある民俗芸能伝承館の定期公演に招待され出演するといった機会を得ることができた。

しかし課題と言うべきか、会場としている「ふるさと伝承館」は町の中心部から離れており、かつ観覧スペースが80人程度と小規模のため、より多くの方が観覧し「伝承文化の郷まむろがわ」をPRする場合の開催場所や方法など検討の余地がある。



番楽道具の展示



釜淵番楽



八敷代番楽



平枝番楽



本海獅子舞番楽前ノ沢講中（秋田県由利本荘市）



柳原番楽（金山町）

5 終わりに

当町の番楽は、平成25年度に「未来に伝える山形の宝」（山形県）に「旧矢島街道でつなぐ加無山系番楽と女甕山の犬カツラ」として登録され、PRと保存継承活動を行っている。今後も事業を継続し、若い世代への継承につながることを期待するとともに、保存団体の永続性につなげていけるよう事業を展開していく。

第 19 回町民レクリエーション大会

真室川町

1 はじめに

真室川町では、総合運動公園（野球場・体育館・テニスコート・ターゲットバードゴルフ場・グラウンドゴルフ場・多目的運動広場）をはじめ、秋山スキー場・クロスカントリーコース、武道館等を整備し、子どもから高齢者までスポーツに親しむことが出来る環境づくりを進めている。

また体育協会やスポーツ少年団等と連携しながらスポーツの普及を進めるとともに、競技力の向上を図っており、その一環として、行政とスポーツ関係団体が連携し、スポーツやレクリエーションを始める「きっかけづくり」を図るため、町民レクリエーション大会を開催している。

2 事業のねらい

各種スポーツ団体と連携して町民一人1スポーツを推進することにより、町民の健康増進とコミュニティー育成を図り、活力あふれる町づくりに資する。

3 具体的な取組み

体育の日の毎年恒例イベントとして定着しており、行政と各スポーツ団体により実行委員会を組織し、協力しながら運営している。

定番化している球技5種目のほか、町スポーツ推進委員が参加者の間口を広げる試みとして企画したロゲイニング（ナビゲーションスポーツの一つ。町内にチェックポイントを設定し、「足」のみの移動手段でポイントを巡った数（得点）を競う）を主管となり実施し、計6種目で行った。

(1) 日 時 令和5年10月9日（月・スポーツの日）

※ソフトボール10月8日、ラージボール卓球10月22日に開催

(2) 場 所 真室川町総合運動公園 他

(3) 参加人数 227名

(4) 種 目 テニス・グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ・ソフトボール・ラージボール卓球・梅の里ロゲイニング



テニス



グラウンドゴルフ



ターゲットバードゴルフ



ソフトボール



ラージボール卓球



梅の里ロゲイニング

4 成果と課題

各種目の特性に応じ、女性や中高年世代、親子でも参加しやすいよう特別ルールを設定するなど、初めての方でも参加しやすいよう工夫してきた。事業実施後は、次回開催に向け、各種目団体から、競技別事業報告書を提出してもらい、「評価できる事項」「見直しが必要な事項」をそれぞれが出し合い、共有することにより、レベルアップに心掛けている。

本大会がきっかけとなり町民の生涯スポーツ振興につながっているが、近年の開催では、各スポーツ団体の会員以外の参加が減少してきている。その点で、幅広い世代の方が気軽に楽しめるよう、「ロゲイニング」などの軽スポーツを種目として継続していくことで認知度を高め、普段スポーツをしない方が興味を持って参加を意識するような大会にしたい。

5 終わりに

体育協会やスポーツ少年団、体育施設利用団体やスポーツ推進委員との連携は、今後さらに重要になってくる。そのため、このようなイベントを通して、各団体と連携・協力する事により、町全体のスポーツ振興につなげていく必要がある。

加えて、年代や性別等を問わず、多くの町民がスポーツ・レクリエーションに親しむことで、地域活性化や健康づくりにつながるよう、全町域を対象にした総合型スポーツクラブの設立などを進めていきたい。

「魅力ある図書室を目指して」

大蔵村

1 はじめに

中央公民館の図書室は、蔵書数約7,200冊と小さい図書室ではあるが、利用者の方に気持ちよく使ってもらえるように、地域の読み聞かせサークルの方々に協力してもらいながら、環境整備をしている。

令和2年11月には、本の貸出管理をバーコード化し、貸出や返却の手続きをスムーズにするなど、利用しやすい図書室としてリニューアルオープンした。徐々に利用者数が増加しているものの、中央公民館が土日祝日は閉館しているため、まだまだ利用者数が少ない現状となっている。

図書室の利用を少しでも増やしたい、住民の方に図書室をもっと知ってもらいたいと考え、年3回ほど土日の図書室開放事業にあわせて、本の修理やしおりづくりを行った。

今年度は、放課後児童クラブを対象とした理科読、親子対象のやまがた木育プログラム体験会も実施した。

2 事業のねらい

- ・住民の図書室利用拡大
- ・住民からの図書室の認知度拡大

3 具体的な取り組み

(1) 休日の図書室開放事業

- ・実施日：令和5年10月29日（日）
- ・対象：村民
- ・内容：おはなし会、絵本診療所（修理）、オリジナルしおりづくりブックリユース
- ・成果と課題：○村のイベントに合わせて実施したので、多くの方から足を運んでもらうことができた。

▲まだまだ図書室を知らない方や利用しづらいと思っている方がいると感じるので、村の広報やホームページ等を使って、さらに周知していく必要がある。



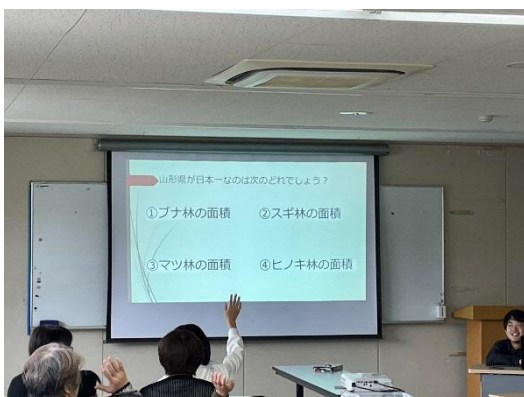
(2) 夏休み理科読教室

- ・実施日：令和5年8月8日（火）
- ・参加者数：放課後児童クラブ1～6年生 30名
- ・講師：チーム理科読の方々
- ・協力：絵本と読み聞かせの会「フレデリック」
- ・内容：「Let's enjoy! 空気のふしぎ」
- ・成果と課題：○絵本の紹介や実験を通して、科学や読書活動に対する参加者の興味・関心を引き出すことができた。
▲年齢層に開きがあったため、低学年にとっては難しいと感じる内容もあった。



(3) やまがた木育プログラム体験会

- ・実施日：令和5年11月3日（金）文化の日
- ・参加者数：15名
- ・協力：山形県環境エネルギー部みどり自然課、やまがた森林と緑の推進機構
- ・内容：テーマ「ストラップづくりを通して森の恵みを知ろう」
①ブナの樹と木の話 ②ブナのしずくストラップづくり
- ・成果と課題：○楽しくブナについて学ぶことができた。
▲低学年の子ども、幼児には作業が難しいところがあった。



4 終わりに

今後も図書室に足を運んでもらい、村の読書活動を推進していくために、図書室の環境整備だけでなく、各種イベントへの参加によるきっかけづくりを通して、図書室利用を促進していきたい。

4. 学習内容

(1) テーピングの種類について

- ・スポーツテーピング
- ・エラスティックテーピング
- ・アンダーラップ
- ・キネシオテーピング
- ・ティアライトテーピング

(2) キネシオテーピングの効果について

- ・筋肉の機能の矯正
- ・血液・リンパ液の循環を改善
- ・痛みの抑制
- ・関節のずれの矯正

(3) テーピングの実践

- ・ふくらはぎ・腰・肩・膝・足首の
テーピングのカットと巻き方

(4) 応急処置の方法について

- ・R I C E 処置について
- ・P O L I C E 処置について
- ・アイシングについて



5. 成果と課題

(1) 成果

- テーピングの種類と効果、正しい巻き方と合わせて、けがをした際の応急処置の方法について学ぶことができた様子であった。
- テーピングの実践を行ったことで、初めてテーピングを巻いた人でも、講師の直接指導により効果的に巻くことができるようになっていた。また、処置の方法で疑問に感じたことをその場で解決され、参加者からは非常に好評であった。

(2) 課題

- 各スポーツ関係団体の指導者や選手、幅広い世代の方が講習会に参加したが、時期や日程等を調整し、更に参加者が増えるよう周知や呼びかけを行いたい。

6. 終わりに

今回の講習会では、村内のスポーツ少年団の指導者や団員をはじめ、各競技団体の選手や各スポーツ関係団体の委員や会員の方などが参加した。参加者からは、「非常に勉強になった。また参加したい。」との感想を多く頂いた。

今後も大蔵村のスポーツ振興を通じて村民の健康と体力の向上や競技力向上、スポーツ精神の高揚が図られる機会の提供を継続していきたい。